

学校法人佐久学園



佐久の薫風

No.13

2020(令和2)年11月30日発行

発行人 学校法人佐久学園

編集人 学園通信編集委員会

<http://www.saku.ac.jp/>



CONTENTS

特集 コロナ禍での学び 2-5

コロナ禍で学生たちが感じたこと 2-3

新しい教育方法の試み 4

学生への支援・臨地実習の実施状況 5

新型コロナウイルスへの対策 5

連続シンポジウム第2回 開催報告 6

足トラブルへの足育対策システム検証調査業務開始 6

キャンバストピックス 6

信州診療看護師(NP)研究会発足 7

日本語教室開催／本学活動が開発協力白書へ掲載 7

メディアでの情報発信／Voice of Graduates 7

人間福祉学部 2021 年度開設／佐久学園から 8

特集 コロナ禍での学び

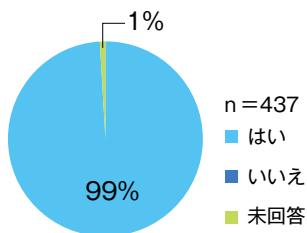
新しい日常。いま、全世界の教育機関で、授業の改善やさまざまな試行錯誤が繰り返されています。いずれもまだ道なかばですが、半年以上の経験を経て、多くの知見が集まりつつあると実感しています。その最前線といえるのが、今回とりあげるような、個々の授業で展開されている学生と教員の双方向のコミュニケーションです。

各教員が授業にさまざまな工夫を施し、学生がそれを体験し、そしてその効果を両者で検証しています。授業はつねに共創の場といえるでしょう。ここに紹介する授業例もそうした努力の賜物で、“新しい看護・介護教育”がいま創られつつあるのだと思います。

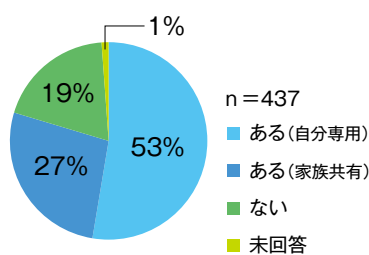
佐久大学では、感染対策を講じる中でも、学生が学ぶ機会を最大限に確保するよう努めてきました。授業開始が延期となった4月中旬には遠隔授業実施の可能性を探るため、「自宅等における通信・情報機器の環境調査」を実施し、その結果を踏まえて、看護学部および別科については遠隔で、大学院および短期大学部については対面での授業を開始しました。6月末まで続い

た看護学部・別科の遠隔授業の間には、受講状況に関する調査（※3p下参照）を実施し、トラブル等への対応を行いました。7月以降は、全学生に対し対面での授業を実施することができ、臨地実習も部分的に実施できる状況になっています。後期は、感染対策を十分に取しながら、授業内容に合わせ、対面授業と遠隔授業の両方で授業を行っています。

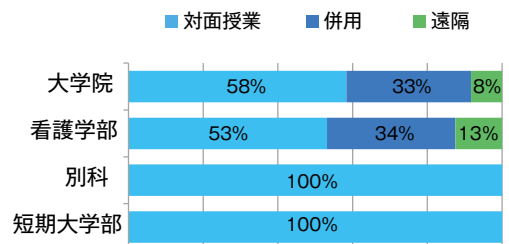
スマートフォンの所有率



インターネットに接続できるパソコンの所有率



後期の授業実施形態



4月は自宅待機になってしまいました。高岡さん…一人暮らしなのでアパートに引き籠るような感じで、国試の勉強をしたり、部屋の片づけをしたりしていました。4月が休みになっていましたので、授業の進行がきつくなりそうだな、実習はできるのかなと心配でした。本間さん…まさかこんなに長い期間、大学に行けなくなるとは思いませんでした。友達と相談しながら課題に取り組みました。一人でアパートにいる間に心配なことがあったのですが、チューターグループの先生に相談し、電話でやりとりができたので安心できました。高山さん…せっかく大学生活が始まるという時にスタートが切れなくて残念でした。周りも同じような状況なので不安とまではいきませんが、どうなるのかなと思います。でも、この間に生物の復習をして大学で学ぶ準備を整えることができました。



高岡彩音さん
短期大学部2年次生

今の1年生にも先輩とつながってほしい

新型コロナウイルスの影響を最初に感じたのはいつでしたか？
本間さん…予定していた春休みの旅行がなくなりました。実家が東京なので帰るに帰れない状況になり、心配した親からの電話が増えました。高山さん…アルバイトが休みになりました。他の大学に通う友達から「遠隔講義に決まった」と聞いて、私はどうなるだろうと少し不安に思っていました。畔上さん…高校の卒業式が縮小になりました。入学式が中止になり、大変な時に当たってしまったなと思いました。高山さん…私も高校の卒業式が縮小になりました。3年生と先生方だけの卒業式でした。

短大は5月の連休明けから対面で授業を開始しましたがどうでしたか？
高岡さん…やっと始まってうれしかったのですが、座席指定で距離を空けたり私語を控えたりと感染対策が厳重だったので、友達とおしゃべりもできずちょっと寂しかったです。でも対面でできてよかったです。畔上さん…最初のオリエンテーションで、登学し



導入基礎演習の冒頭で屋上からの風景をライブ配信する様子

くしていました。この状況がいつまで続くのか、短大は2年間しかないのに取り戻せるのかと不安がありました。看護学部は5月の連休明けから遠隔授業がはじまりましたがどうでしたか？
本間さん…アパートのWi-Fiが混雑しているせいか、遅かったり繋がらなかったりといったトラブルもありましたが、概ね順調でした。教科書が郵送で届いたのにはびっくりしました。高山さん…1年生は連休明けにオリエンテーションがあつて、半日だけ大学に行くことができました。実際に同級生に会うのはとてもワクワクしました。遠隔授業は、パソコンが苦手なため最初は授業にうまく入れなくて、友達にLINEで教えてもらいました。授業資料が郵送で届きましたが、授業後にレジュメがあることに気づくという失敗もありました。本間さん…2年次の授業はリアルタイム型との組み合わせが多かったです。遠隔だと対面よりも質問しづらいのと、ずっとパソコンの画面を見続けたいいけないのは少し大変でした。高山さん…1年次の授業もほとんどリアルタイム型でした。「導入基礎演習」では、授業の冒頭に大学の様子を先生が教えてくれるコーナーがあつて楽しみにしていました。学修の計画を立てたり、大学での学び方も学ぶことができたので助かりました。



遠隔授業配信用教室で授業を行う様子

たらず手を洗う、友達と距離を取る、不要不急の外出を避けるように説明がありました。感染対策で席が離れているし、しゃべるのめ気が引けて、初めての人となかなか仲良くなりくい感じがありました。でも今はもう仲良くなりました。

高山さん…前期はほとんど講義で、後期に入

7月からは看護学部でも対面での授業が始まりましたがどうでしたか？

本間さん…ようやく大学に行けて、友達に会えてうれしかったです。最初は感染対策に慣れなくて、うれしくていしゃべってしまうので、「しゃべらない」「離れて」と注意されることもありましたが、授業はやはり対面の方がいいです。先生や学生同士のやりとりがあつて、授業を受けている実感があつた。高山さん…やっと大学に来て授業を受けて、これが大学だなと実感できました。実際に顔を合わせてみて、席が近い人や、遠隔授業の時のチャットのあのコメントの人みたいな発見から友達ができました。最初は遠隔授業の方が集中できると思いましたが、周りに人がいる環境にもすぐに慣れました。

感染対策を行つての演習や実習はどうでしたか？

畔上さん…演習は2グループに分かれて、ベッドの間隔を空けて、まめに消毒しながら少人数で行いました。

高山さん…いつもならお互いによつてみるところを先生がやつてみたり、代わりに人形相手にやつたりしたので、実際に現場に出て人を相手にできるかなと少し不安があります。マスクをしていると表情が読めないし声も聞きとりづらいので、ちょっと苦労しました。



距離を取って意見交換を行う様子

本間真緒さん
看護学部2年次生

実家が東京なので
帰るに帰れない状況
になりました

たらず手を洗う、友達と距離を取る、不要不急の外出を避けるように説明がありました。感染対策で席が離れているし、しゃべるのめ気が引けて、初めての人となかなか仲良くなりくい感じがありました。でも今はもう仲良くなりました。

コロナ禍での学生生活はどうですか？

畔上さん…サークル紹介を見てから決めたいと思つたので、サークルに入るタイミングを逃しました。入学前から大学祭を楽しみにしていたので、中止になって悲しいです。来年はやりたいです。

高山さん…1年生と交流する機会がないのはとても残念です。イベントやサークルで先輩たちと

高山みなみさん
看護学部1年次生

遠隔授業でも大学の様子が
わかり楽しんでいた

就職活動にも影響はありましたか？

高山さん…例年だと6月の実習で就職先を考えたたりしたと先輩に聞いていたのですが、時期がずれてしまったので、就活に出遅れた感じがりました。でも、先輩に聞いて就職に関する情報収集をしています。求人は減つていないようですが、見学には行きづらいなと思います。説明会には行く予定です。



人形を相手に介護技術を説明する様子

この先、心配な事はありますか？

高山さん…これまでどおりの実習がちゃんとできるのかな、ということですね。就活や国試は、先生方がフォローしてくださっているのでそれほど不安はありません。あとは自分が頑張るだけです。他にも、大学祭ができないので1年生への引継ぎができるのかとか、地域交流サークルの活動もきちゃんと引き継げるか等も心配です。

畔上さん…遠隔授業にならないではいいです。長野市から新幹線通学をしているので、通学ができなくなるのが心配です。教室では席が指定されているので、もっと自由に友達としゃべれるような状況になるといいなと思います。

高山さん…今の楽しみは友達と会って話すことなので、このまま対面授業で進んでほしいです。

本間さん…東京の実家にはいつ帰れるかなあと

畔上和也さん
短期大学部1年次生

入学前から大学祭を
楽しみにしていました

本間さん…昨年に比べてイベントが少ないことは残念です。入学後に行う1年生との交流会はなくなり、大学祭もなくなりました。その代わり10月に交流会を行いました。7月に行なつたチューター会では、学内で対面に参加する人とオンラインで参加する人と両方いて、上級生から試験のアドバイスを聞いたのはとてもよかったです。

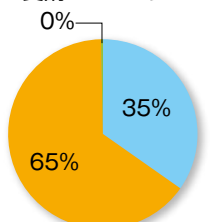
のつながりができて、授業のことや国試のこと、就職のこと等いろいろ教えてもらつて、自分が今すぐく助かっている。サークルの活動もまだ2回しかできていないし、1年生を勧誘する機会もあります。

高山さん…先輩とのつながりが持てたらと思う学生広報チームSPICEに参加しています。先日の交流会では2年次に、試験の話を聞くことができました。今度のチューター会では4年生に、勉強のモチベーションを維持する方法等を聞いてみたい。チューターの先生とは在宅期間中も面談し、対面授業が始まった後も相談できるので安心です。

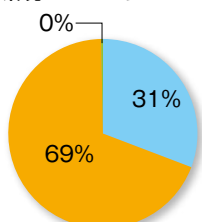
【遠隔授業受講状況に関する調査】結果

調査対象：看護学部生および別科生
調査方法：学習支援システムmanaba
調査期間：2020年5月29日～6月5日
回答人数：354人/369人中

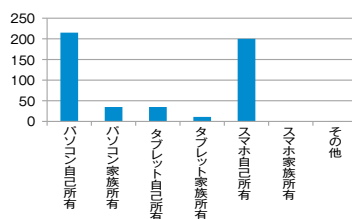
●遠隔授業をどこで受講していますか



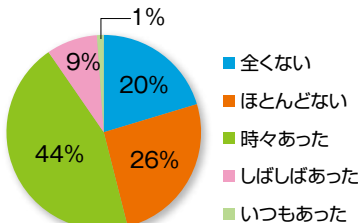
●遠隔授業を受講しやすい環境はどこですか



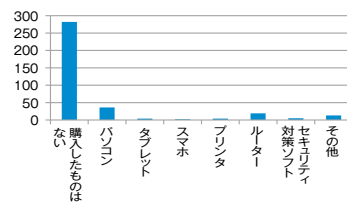
●どの情報機器で受講していますか



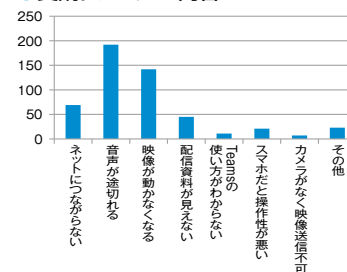
●受講にトラブルが生じたことはありますか



●受講のため新たに購入した機器はありますか



●受講トラブルの内容



【導入基礎演習】看護学部1年次科目

大学教育での学び方を学ぶ初年次教育科目です。今年度は「SDGs in Covid-19 pandemic に取り組む」の共通課題のもと、個人プロジェクトを行い、正解がないところに答えを出すことに挑戦しました。まだ一度も対面での授業ができない状況の中、少しでも安心した大学生活がスタートできるよう、授業の冒頭で日々の学内の様子を伝えるコーナーを設け、「キャンパス案内」「新校舎の建設風景」「バーチャル図書館ツアー」等を、毎授業配信しました。対面授業開始後の発表会では、全員が自分のプロジェクトのプレゼンテーションを行い、フィジカルディスタンス（身体的距離）を保ちながらも活発な意見交換会が行われました。

**【小児看護援助論】看護学部3年次科目**

例年「子どもと外来看護」を学ぶ回では、実習室で外来窓口を再現し、問診、トリアージ、相談対応などを学びます。今年度は遠隔授業となったため、あらかじめ提示した4事例を学生が事前学修した上で、オンラインで約5分間のロールプレイを行いました。小児科外来に寄せられた母親からの電話対応場面を想定し、子どもの状況を聞いた看護師役の学生は、母親役の教員に問診後の受診時期や時間帯、受診までの過ごし方や注意点を説明することを体験して振り返りました。演習前、遠隔で実施するロールプレイに緊張した学生もいましたが、外来での問診や対応のイメージが持て、学修の不足部分も確認できたようでした。



コロナ禍における新しい教育方法の試み ―授業の工夫―

【生活支援技術Ⅰ】短期大学部1年次科目

睡眠休息、移動移乗、食事の介護が主な内容となる、介護実習室で行う演習授業です。対面授業を行うにあたり感染対策には十分配慮しました。受講人数を制限するためクラスを2つに分け、時間割を他科目と入れ替えたり補講に振り替える等の調整を行いました。演習は1グループ（1ベッド）3名以内とし、各グループ間2mのフィジカルディスタンスを確保し実施しました。実習室の窓・扉は常時開放、使用教材は学生が交代するたびに消毒、教員はマスクとフェイスシールドを着用、通常は学生同士のロールプレイで行うところを介護モデル人形を使用しての演習を中心に行いました。学生は感染対策にも気を配りながら、臨地実習に向けて取り組んでいました。

**【看護総合実習・老年看護学領域】看護学部4年次科目**

本科目はこれまでの集大成となる臨地実習で、学生が領域を選択します。今年度は施設へ出向くことが叶いませんでしたが、老年看護学領域では、シームレスなケアを継続するための情報共有・コミュニケーションについて、介護保険施設に入所する場合、自宅退院する場合といった複数の場面設定をし、ロールプレイを行いました。その様子を録画し全員で見て、良かった点・改善点を話し合うことで、自己とメンバーの関わりを丁寧に振り返ることができました。学生からは「自分の姿を見るのは恥ずかしいけど、話し方や癖に気づくことができた」「施設実習では経験できなかった学びになった」「領域別実習前もぜひ取り入れてほしい」という意見があがりました。



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する本学の対応について【2】

佐久の薫風12号に掲載したとおり、佐久学園危機対策本部にて逐次対応について協議し、国や県の危機レベルに合わせ「佐久学園行動指針(BCP)」を改訂し、措置を講じています。

- 6月・学生への経済的支援
 ・図書館の縮小開館(時間の延長)
 ・オープンキャンパスを対面(人数制限)とWEB同時開催
 ・「COVID-19の影響に伴う経済支援の調査」実施
 ・看護学部対面授業開始の準備「感染予防対策と学内施設利用方法」の作成・学内ゾーニングの再確認ほか
 ・図書館の予約制利用実施
 ・信州介護学研究会中止
- 7月・看護学部対面授業開始(遠隔授業と併用)
 教室収容率50%内、座席の固定
 ・学生食堂の営業再開
 メニューの限定(ランチBOXのみ)・座席数制限
 ・課外活動を段階的に開始
 ・施設利用時間の延長
 ・図書館利用時間20時まで延長(入館制限20人)
 ・短期大学部1年次生:立誓式を規模を縮小して実施
- 8月・前期定期試験の実施
 ・前期末ガイダンスの実施
- 9月・看護学部3年次生:ナーシングセレモニーを規模を縮小して実施
 ・後期授業開始(遠隔・対面併用)
 教室収容率70%内
- 10月・大学祭中止
 ・看護学部1・2年次生交流会を実施



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の状況により、今後の対応に変更が生じる場合があります。最新情報は佐久大学ホームページでご確認ください。



学生への経済的支援

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大に伴う経済状況の悪化等を鑑み、佐久学園独自の経済的支援として、遠隔授業等の受講環境の整備や家計急変等に伴う学業の継続が困難な学生の支援を目的に、新たに3つの経済的支援を行うこととしました。

- COVID-19対応授業環境整備支援金
(全学生を対象に一人一律20,000円を支給)
- 佐久大学「経済支援奨学制度」の拡充
(授業料の半額または1/3減免)
- 佐久学園「給付型奨学金」の新設
(月額25,000円を支給)

臨地実習の実施状況

前期

- 看護学部 ● 2年次EBN実習Ⅰ:学内演習
 ● 4年次総合看護学実習:学内演習
- 短期大学部 ● 1年次基礎実習:受入施設を変更
 ● 2年次第2段階実習:実習時期を変更
- 大学院 プライマリケア看護学実習:例年どおり

後期

- 看護学部 ● 2年次EBN実習Ⅱ:例年どおり
 ● 3年次領域別看護学実習:領域により異なる11月以降は全領域で施設にて実施
 ● 4年次地域看護学実習(保健師):施設に出向く日数を減らし、学内演習と組み合わせる実施
- 別科助産学 ● 実習:受入施設減のため、症例数を減らして実施
- 短期大学部 ● 1年次第1段階実習:施設あたりの人数を減らして実施
 ● 2年次第3段階実習:例年どおり
- 大学院 ● プライマリケア看護学実習:中断を挟みながら実施

学生への支援体制

- ・ 毎日の健康チェック実施の継続
- ・ 学生行動指針の随時更新、周知
- ・ 保健室およびカウンセリングルームによる個別ケア
- ・ 学生なんでも相談室による個別相談



担当:花里

保健室【学生なんでも相談室】

からだの悩み、こころの悩み、友達や家族、学生生活の困りごと・・・、小さなことでもひとりで抱え込まずに気軽に相談してください。

佐久大学では、担当部署と教職員が一丸となり学生への支援を行っています。登学禁止期間中の健康・行動調査を4月から6月までの間に5回行いました。2回目以降はうつスクリーニングの質問項目も追加し、学生の心身両面の健康状態の把握に努めました。調査の結果、風邪症状のある学生や、精神面での不安がある学生については、担当教員が電話で連絡を取り、必要だと判断した場合には保健室職員やカウンセラーが本人と連絡を取り、継続した支援を行ってきました。学生なんでも相談室へは、遠隔授業における不安や、友達に会えない寂しさ、課題に追われるストレス等をメールで訴えてくる学生がありました。それらについても担当者間で連携を取り支援にあたりました。今後も継続して支援に取り組んでいきます。

佐久大学ヒューマンケア学部開設に向けた 連続シンポジウム第2回 地域創生とヒューマンケアの人づくりを応援する ～期待される社会福祉活動、佐久大学に期待すること～

8月29日に連続シンポジウムの第2回目を開催しました。シンポジストの方々からは、それぞれが目指す地域づくりや必要とする人材像、佐久大学にはその人材育成を期待していること等をお話いただきました。

シンポジスト：佐久市長 柳田清二氏 小諸市長 小泉俊博氏 前全国町村会長 藤原忠彦氏 佐久大学副学長 佐藤嘉夫氏
コーディネーター：信濃毎日新聞特別編集委員 飯島裕一氏

新型コロナウイルス感染拡大防止のため学園教職員のみでの参加となりました。
内容は収録して佐久・小諸のケーブルテレビで放映しました。今後DVDに収め、高校や実習施設など関係機関に配布予定です。



「足トラブルへの足育対策システム検証調査業務」を開始

令和2年5月に佐久市健康長寿ブランド化推進事業の委託を受け、本業務を開始しました。現在、佐久大学客員教授ルッツ氏を始めとする大学教職員と、佐久市足育推進協議会の理学療法士や靴販売店の協力を得て、足トラブルのあるモニター様へ、「足に応じた靴選び、トラブル原因の解消を目的にしたインソールの製作・調整、フットケア、靴の履き方、足部トレーニングや歩行指導」などを実施しています。足のトラブルの改善には、多職種の連携が不可欠であり、本事業では、その介入効果を実証し、今後の佐久市民の足の健康増進のシステム構築へつなげることを目指しています。



CAMPUS TOPICS

● 大学院看護学研究科 ● 看護学部看護学科 ● 別科助産専攻 ● 信州短期大学部 ● 共通

キャンパストピックス 2020.05 ～ 2020.10

5/9 新校舎起工式

新学部開設に向け、新しい校舎の建設が始まりました。新校舎には講義室の他、図書館等が入る予定です。



7/11 修士論文発表会

3月から延期になっていた令和元年度大学院修士生の修士論文発表会を、参加者制限を行いオンラインを併用し、開催しました。

7/31 立誓式

短期大学部1年次生24名が、誓いの言葉を唱和し、施設実習に臨む決意と責任を誓いました。



8/15 NCPR講習会

別科生を対象に、新生児蘇生法「専門」コース講習会を行いました。感染防止のため、ゴーグルを装着して実施しました。



8/30 JICA-SDGs パートナーに認定



本学の「途上国の持続的な開発目標(SDGs)」への取り組みが認められ、JICA-SDGsパートナーに認定されました。

9/4 ナーシングセレモニー

看護学部3年次生が、半年間の臨床実習を前に決意を新たに誓いを述べるセレモニーを行いました。今年度は、感染症対策のためご家族の出席をご遠慮いただき、規模を縮小しての式典となりました。



10/20 カップ麺を寄贈いただきました



信州佐久安養寺ら〜めん会様より、コロナ禍の影響を受ける学生への支援として、カップ麺400個をいただきました。

10/24 1・2年交流会



看護学部1・2年次生による交流会が行なわれ、チューター会やビンゴ大会などで親睦を深めました。

10/28 新学部設置認可記者会見

10月23日付で文部科学大臣より認可された「人間福祉学部」の設置について、長野県庁にて記者会見を行いました。



信州診療看護師(NP)研究会を発足しました

信州診療看護師(NP)研究会は、会員相互の緊密な交流及び情報交換を通して会員の資質の向上を図るとともに診療看護師の役割開発の推進を目的としています。主な活動として、診療看護師に関する情報の収集及び提供、診療看護師の役割開発を目指した研究などを行います。会長は佐久大学大学院プライマリケア看護コース1回生の萩原和章さん(三才山病院)で、他大学院修了者も参加しています。診療看護師は、その名前の示すように診断や治療の一部を担う役割を持っています。今後、診療看護師が訪問看護などで活躍するようになれば、利用者さんや家族の方々への貢献が期待できます。スタートしたばかりの会ですので、ご支援よろしくお願い致します。今後、研修会なども企画する予定ですのでご参加ください。

*信州診療看護師(NP)研究会 正会員：佐久大学大学院看護学研究科プライマリケア看護コース修了者及びコース担当教員、長野県内で診療看護師の任を担う者で、会の目的に賛同する者
準会員：この会の目的に賛同し、正会員の推薦を受けた医療従事者



「日本語教室」を開催

佐久市・小諸市内の介護事業所で働いている外国人の方を対象に、日本の生活や文化の理解と専門用語の修得を目的とした日本語教室を開催しました。

*本事業は、佐久市「福祉・介護のつばさ事業」の一環として行っています。



介護日本語Iクラスで教える廣橋副センター長



電話応対を学ぶ様子

外務省「2019年版開発協力白書」に 本学の国際活動が掲載されました

本学が佐久市と共に取り組んできましたJICA高齢者ケアプロジェクト「タイ国チョンブリ県における町ぐるみ高齢者ケア・包括プロジェクトーサンスク町をパイロット地域としてー」の活動が2019年版開発協力白書に掲載されました。

こちらからご覧ください →



佐久ケーブルテレビ

佐久大学からこんにちは

学生広報チームSPICEも出演し、佐久学園の情報を発信します。ケーブルテレビに加入している皆さん、是非ご覧ください。

チャンネル12 (自主放送)
毎月第3木曜 朝7:30~
自主制作番組「SAKUいち」内
にて放映



fmさくだいら「佐久大学で学ぼう!!」

月曜-金曜 毎朝7:50 ~ 放送中
曜日ごとのテーマで佐久大学の情報をお届けします

テレビCM
第2弾
放映中



Voice of Graduates 卒業生の声 No.10

A6 Q6

今後の目標
診療看護師として自分の立ち位置を明確にしながら活動していきたいです。

A5 Q5

大学時代の思い出
仕事と講義、課題に追われる日々でしたが、院生同士の意見交換はとても楽しかったです。看護教育学、看護管理学、医療安全、倫理など、すべての学びが役立っています。今後の看護師人生におけるターニングポイントとなる貴重な2年間となりました。

A4 Q4

仕事で大変なこと
診療看護師の認知度はまだまだ低く、どの分野でどのように活動していけばよいのか、何もかもからなので大変です。

A3 Q3

入学にいたる経緯・動機
入院中から在宅まで、患者さんやご家族とプライマリに関わりたいたいと感じていました。医師がすぐに対応できないときに看護師ができることはないのかと考えていた時に、佐久大学のプライマリケア看護コースを知り入学を決意しました。

A2 Q2

現在の仕事内容
外来師長として管理業務を行いながら、糖尿病患者の診療介助を行っており、今後、フットケア外来の開業や、糖尿病ケアサポートチームの立ち上げを予定しています。訪問診療に同行し、気管切開カニューレ交換介助を行うほか、訪問看護師・地域連携課との情報交換・調整も行います。褥瘡対策チームの一員としては、褥瘡回診、デブリドマン介助を行っています。また、当センターでの特定行為の実施に向け、組織としてのシステム作りを行っています。

A1 Q1

卒業してから現在
卒業後、病棟から外来へ異動になり、外来業務の大変さを痛感する毎日です。外来師長・診療看護師として、医師や病棟看護師、訪問看護師・地域連携部門との連携の重要性を実感しています。



JA長野厚生連鹿教湯三才山
リハビリテーションセンター
鹿教湯病院勤務

看護師長
診療看護師

清水ゆき子さん

佐久大学
大学院看護学研究科
プライマリケア看護コース
令和元年度修了

「人間福祉学部」の設置が認可されました

— 2021年4月開設 —

かねてより申請を行っていた「人間福祉学部」設置について10月23日付で文部科学大臣より認可され、2021年4月の開設が決まりました。学部名称は申請時の「ヒューマンケア学部」から「人間福祉学部」に変更になりましたが、ヒューマンケアを柱として社会福祉士・精神保健福祉士課程を置く教育内容に変更はありません。

新校舎の建設工事は着々と進み、10月8日(木)には現場敷地内で上棟式が行われました。新校舎は、鉄筋コンクリート一部鉄骨造り2階建延べ2700平方メートル余りで、図書館を含むメディアセンターやラーニングコモンズが併設される予定です。また、研究室や実習準備室などの既存校舎の改修工事も進んでいます。

新学部設置整備室では、10月1日より新たに、長谷川武史准教授、上西一貴助教の2名が着任し、佐藤嘉夫

副学長のもと学部体制の検討や授業科目の設定、入学試験の準備など新学部開設に向けて整備を進めています。新学部について県内外の高校生へ広く知ってもらうため、オープンキャンパスや高等学校教員向け説明会を開催し、高等学校への直接訪問を通じてのPR活動も続けています。また、学生や教員が出演するテレビやラジオでも情報を発信しています。

また、信州短期大学部福祉学科では、2021年4月より「介護福祉専攻」と「子ども福祉専攻」の2つの専攻課程を開設いたします。介護福祉士のほか新たに保育士資格の取得が可能になるとともに、ビジネス関連の資格や検定も取得が可能なカリキュラムとなります。佐久学園は今、2021年4月の新しい出発に向けて活気づいています。

人間福祉学部の
詳細はこちら



子ども福祉専攻の
詳細はこちら



佐久大学の
入試情報はこちら



人間福祉学部の
入試情報はこちら



佐久大学新学部開設小講演 ～アフターコロナを生き抜くために～

日時 12月19日(土) 13:30—15:30

場所 佐久大学2300講堂

*ミニシンポジウム形式で行います《予定》

コーディネーター

野口 定久氏(日本福祉大学大学院特任教授／
佐久大学人間福祉学部・学部長
予定者)

シンポジスト

長谷川武史氏(佐久大学准教授・社会福祉士)
荻野 紅葉氏(小諸高原病院・精神保健福祉士)
上原 貴夫氏(日本自然保育学会理事)



寄附金のお願い

学校法人佐久学園では、寄附金を受け付けています。佐久学園は、今後、さらなる教育研究活動の充実に努めてまいります。新校舎にはご寄附いただいた方の「寄附者銘板」を設置いたします。皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

目標額 1億円

募集金額 個人：一口3,000円以上(何口でも)

法人：特に定めない

佐久学園へのご寄附は、税法上の優遇措置が適用されます。

詳細は、佐久大学ホームページまたは総務課までお問い合わせください。

<https://www.saku.ac.jp/about/donation/>

TEL.0267(68)6680 E-mail:soumu@saku.ac.jp

新型コロナウイルスも少し落ち着いたらと思えばまた増え、未だ収束の兆しが見えませんが、振り返ってみると、この一年はコロナ禍による影響で大学もオンライン授業の実施や各種活動の自粛など心労が絶えませんでした。世界では新型コロナウイルス感染拡大が続く中、感染を予防しながら日常生活を送る「ポストコロナの時代」と変わってきています。そして、本学の学生にはこれからの予測できない変化がおこり続ける「ニューノーマル時代」を切り拓いていく力があると信じています。

(井手段)

編集後記